

平成24年度 病院事業会計予算概要

平成24年度の病院事業会計予算は、単年度収支均衡はもちろんのこと、昨年度同様、当院の特色ある取り組みに力を入れるとともに、医療サービス提供の中心となる看護師のスキルアップのための研修派遣事業の継続やリハビリテーションスタッフの体制を強化するなど将来を見据えた編成を行いました。

まず、収益的（損益勘定）収支において、医師の体制を平成23年度とほぼ同じ水準を維持することができるとともに、総合内科医養成研修診療所の運営、回復期リハビリ病棟の本格稼働などで、診療収益は本院・診療所合わせて46億3千4百万円を予定し、事業収益合計では平成23年度の最終予算と比べて、2千7百万円増収となる56億4千7百万円を予定しています。

一方、費用につきましては、改革プランに沿った経費節減を継続して行いますが、医療スタッフの増員などで費用の増加を予定していますので、事業費用合計では平成23年度の最終予算と比べると、1億9千9百万円の増額となる57億5千7百万円を予定しています。

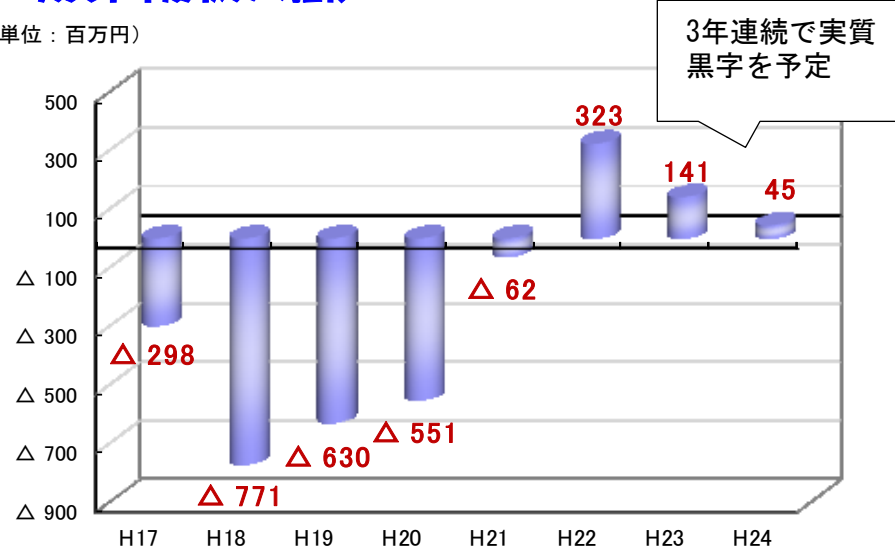
この結果、損益勘定収支（純損益）は平成23年度最終予算からは1億7千2百万円の悪化となります。

なお、資本的収支において借金の返済などで4億3千5百万円の収支不足が生じていますが、損益勘定留保資金※で補てんしますので、実質単年度収支は4千5百万円の黒字となり、平成22年度決算から3年連続の実質単年度黒字を予定しています。

※損益勘定留保資金 減価償却費や固定資産の除却費など費用として予算計上されながら、現金の支出を必要としないものの合計額のことです。

☆実質単年度収支の推移☆

(単位：百万円)



☆実質収支比較☆

(単位：百万円)

区分	H24 予算	H23 最終予算	増減
事業収益計 ①	5,647.3	5,620.5	26.8
事業費用計 ②	5,757.5	5,559.0	198.5
純損益 (△損失) ③			
① - ②	△ 110.2	61.5	△ 171.7
損益勘定留保資金 ④	590.3	636.6	△ 46.3
資本的収支差引 ⑤	△ 435.2	△ 337.3	△ 97.9
単年度収支 ⑥	44.9	360.8	△ 315.9
③ + ④ + ⑤			
特別支援等 ⑦		220.0	△ 220.0
実質単年度収支 ⑥ - ⑦	44.9	140.8	△ 95.9

※事業収益及び費用は税抜きで表示しています。

1. 収益的収入の状況

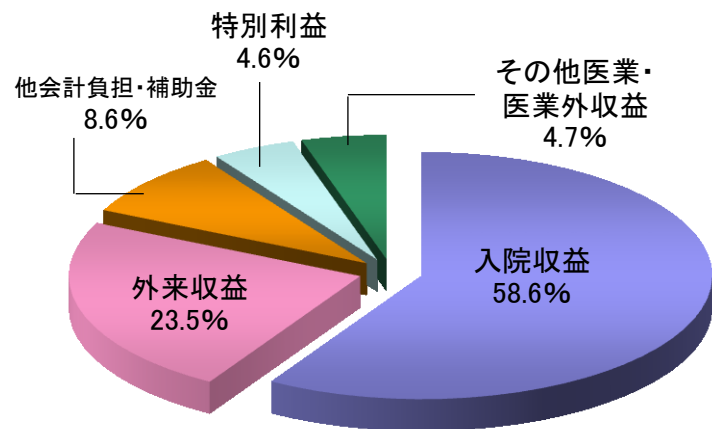
病院事業の収入は、みなさんの入院料及び外来診療料等によりまかなわれています。内訳は、下記のとおりです。
 ※税抜きで表示

(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成 24 年 度		平成 23 年 度		比較増減	増減率
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	最終予算額 C		
入 院 収 益	入院料など	3,310,761	58.6	3,132,154	3,188,772	121,989	3.8
外 来 収 益	本院及び診療所の外来診療料など	1,323,659	23.4	1,271,854	1,403,480	△ 79,821	△ 5.7
他会計負担・補助金	留萌市からの負担金・補助金（繰入金）	487,791	8.6	499,159	499,029	△ 11,238	△ 2.3
その他医業収益	室料差額、健康診断料、診療所の交通費実費分など	211,443	3.7	213,178	214,703	△ 3,260	△ 1.5
医業外収益	道補助金、職員給食費・保育料など	53,087	0.9	55,740	55,740	△ 2,653	△ 4.8
特別利益	資産の売却益や特例債元金償還支援など	260,589	4.6	258,774	258,774	1,815	0.7
合 計		5,647,330	100.0	5,430,859	5,620,498	26,832	0.5

前年度最終予算額と比較して、固定医の異動が少なく診療体制もほぼ維持することができることと回復期リハビリ病棟の本格稼働が見込めることから、入院・外来収益は4千2百万円の増収を予定しています。
 また、そのほかの収益につきましては留萌市からの繰入金をはじめ減収を見込んでいますが、収益的収入の合計は、前年度最終予算額と比較して、2千7百万円増の56億4千7百万円を予定しています。

☆収益的収入の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

入 院 収 益	回復期リハビリ病棟の本格稼働など 121,989増収
外 来 収 益	利用者減 △5,703人 79,821減収 (泌尿器科医師の減 など)
他 会 計 負 担 ・ 補 助 金	留萌市からの繰入金 11,238減収 (経営効率化などで収支不足額を圧縮)
そ の 他 医 業 収 益	健康診断収益等 3,260の減収
医 業 外 収 益	道補助金の減(医師臨床研修事業 4,907の減収) など
特 別 利 益	公立病院特例債元金償還 1,815

2. 収益的支出の状況

職員の給料、医薬品購入等の病院事業を運営するために必要な経費です。内訳は、下記のとおりです。

※税抜きで表示

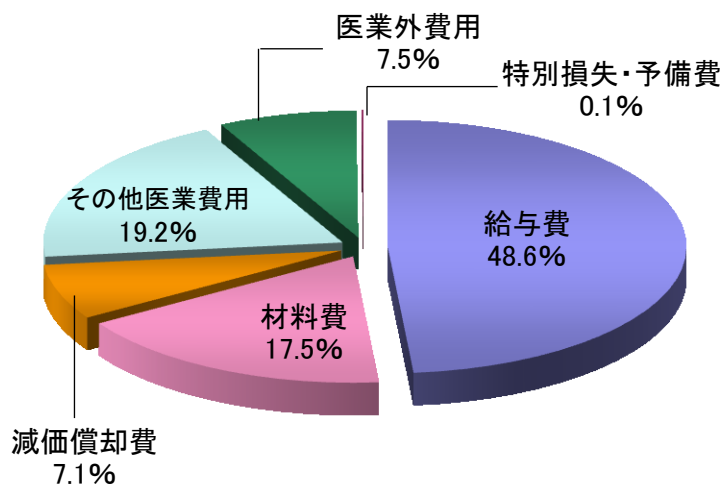
(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成 24 年 度		平成 23 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	最終予算額 C		
給 与 費	職員の給料・手当など	2,799,686	48.6	2,519,253	2,505,120	294,566	11.8
材 料 費	薬・注射・診療に用いる材料・給食材料など	1,006,353	17.5	942,638	1,011,041	△ 4,688	△ 0.5
減 価 償 却 費	建物や機器などの減価償却	408,515	7.1	401,403	410,496	△ 1,981	△ 0.5
その他医業費用	診療委託料(出張医)・施設維持管理経費など	1,107,706	19.2	1,098,705	1,142,082	△ 34,376	△ 3.0
医 業 外 費 用	企業債(借入金)利息・保育施設経費・患者搬送費など	428,653	7.4	459,165	464,545	△ 35,892	△ 7.7
特 別 損 失	貸付金償還免除費、医療費収入不納欠損金など	3,721	0.1	1	22,817	△ 19,096	△ 83.7
予 備 費		2,857	0.0	2,857	2,857	0	0.0
合 計		5,757,491	100.0	5,424,022	5,558,958	198,533	3.6

前年度最終予算額と比較して、看護職やリハビリスタッフの増員などにより、給与費で2億9千5百万円の増加を予定していますが、そのほかの費用につきましては、平成23年度のような医療情報システムの更新などの臨時的な費用がないことから、その他医業費用が3千4百万円減少し、企業債利子や繰延勘定償却の減など医業外費用で3千6百万円、特別損失で1千9百万円の減少を予定しています。

これにより収益的支出の合計では、前年度最終予算額と比較して、1億9千9百万円増の57億5千7百万円を予定しています。

☆収益的支出の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

給 与 費	医療スタッフの増員等による給与費の増 294,566 (看護職、リハビリ職)
材 料 費	在庫見直しなど材料費の抑制による減 △4,688
減 価 償 却 費	器械及び備品償却費の減 △1,981
その他医業費用	固定資産除却費の減 △16,299 臨時的な経費(システム更新等)の減 など
医 業 外 費 用	企業債利子の減 △14,826 繰延勘定償却費の減 △19,184 など
特 別 損 失	過年度分収入の返還の減 △14,014 修学資金等貸付金償還免除の減 △5,100 など

3. 資本的収支の状況

資本的収支とは将来の経営活動に備えて行う医療機械の購入・施設整備やそれにかかる企業債の元金償還、勸奨や定年退職者の退職金などの支出とその財源になる借入金や企業債償還のための留萌市からの出資金などの収入のことをいいます。内訳は、下記のとおりです。

☆資本的収入☆

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 24 年 度		平成 23 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	最終予算額 C		
企 業 債	企業債（借入金）	50,000	13.6	350,000	322,700	△ 272,700	△ 84.5
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金、負担金・補助金（繰入金）	318,978	86.4	530,884	531,014	△ 212,036	△ 39.9
そ の 他	資産購入補助金、固定資産売却代金、貸付金償還金	3	0.0	3	23,458	△ 23,455	△ 100.0
資本的収入合計		368,981	100.0	880,887	877,172	△ 508,191	△ 57.9

☆資本的支出☆

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 24 年 度		平成 23 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	最終予算額 C		
建 設 改 良 費	医療器械の購入・施設整備など	54,418	6.8	354,418	351,181	△ 296,763	△ 84.5
企 業 債 償 還 金	企業債の元金償還金	722,222	89.8	707,111	707,111	15,111	2.1
繰 延 勘 定	勸奨や定年退職者の退職金	0	0.0	129,730	129,730	△ 129,730	△ 100.0
そ の 他	修学資金・研究資金貸付金など	27,590	3.4	26,400	26,400	1,190	4.5
資本的支出合計		804,230	100.0	1,217,659	1,214,422	△ 410,192	△ 33.8
収 支 差 引		△ 435,249	-	△ 336,772	△ 337,250	△ 97,999	29.1

前年度最終予算額と比較して、企業債（借入金）や国・道補助金を財源とした医療器械や医療情報システムの更新事業が終了し、資本的収入・支出はともに大幅な減少を予定しています。また、看護師確保対策として取り組んでいる修学資金等の貸付金は、修学資金の貸付予定者を29人（新規で10人）と当院就職後の研究資金の貸付予定者8人分を含めまして2千8百万円を予定しています。

このほか定年退職者等の退職給与金の繰延処理を廃止したことで、繰延勘定1億3千百万円の減額を予定していますが、留萌市からの特別な支援（2億2千万円）が終了するため、資本的収支差引は、4億3千5百万円の不足が見込まれます。

※この収支不足額は、損益勘定留保資金などで補てんします。

☆主な増減内訳☆

<収益>

(単位：千円)

企 業 債	医療器械等整備事業債の減 △272,700
他会計出資・負担・補助	留萌市からの特別支援（不良債務解消）の減 △220,000 など
そ の 他	設備整備にかかる国・道補助金の減 △21,856 など

☆主な増減内訳☆

<費用>

(単位：千円)

建 設 改 良 費	医療情報システム整備事業の減 △297,063 など
企 業 債 償 還 金	企業債元金償還の増 13,296 公立病院特例債元金償還の増 1,815
繰 延 勘 定 ・ そ の 他	退職給与金の繰延処理を廃止 △129,730 修学資金等貸付金対象者の増 1,190

4. 企業債残高及び元利償還金の状況

企業債とは、建設改築事業(病院の場合は病院や医師住宅の建設、医療器械やシステムの整備など)を行うにあたり、資金が不足している場合に起こす地方債(借金)のことです。

病院事業の元利償還(返済)金は、病院建設事業(本体工事や周辺整備、移転のために更新した医療器械)のために借り入れた企業債の返済が本格化したために年々増加し、平成18年度には8億3千万円にまで上昇、一端ピークを迎えました。その後、医療器械分の返済の一部が終了しましたので、平成19、20年度は6億円程度にまで下がりましたが、平成20年度に医師不足が理由で発生した赤字を分割返済する特別な企業債(公立病院特例債 18億2千4百万円)を発行したことにより残高が増加し、返済額も平成21年度からは8億6千万円に上昇しています。(公立病院特例債の元利償還金は、全額市からの繰入金で返済しています。)

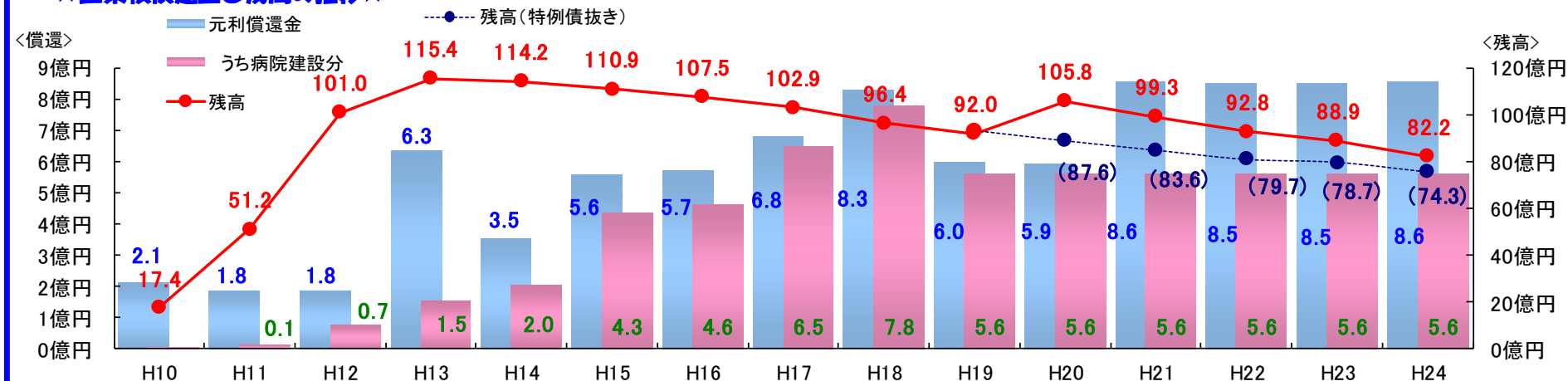
平成23年度には移転改築時に整備した医療情報システムなどを更新するために3億2千万円を借り入れ、平成24年度以降も必要な医療器械等について病院内で精査し、適切な更新・導入を行います。

☆企業債償還金及び残高の推移☆

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
元金	166	138	138	462	172	377	394	504	659	436	440	698	700	707	722
利子	44	47	47	170	182	181	178	174	169	161	154	160	151	143	135
元利償還金	210	185	185	633	355	558	572	678	827	597	595	858	851	850	857
うち病院建設分	3	14	75	152	202	432	461	649	778	563	563	563	563	563	563
うち公立病院特例債												267	268	268	268
残高	1,744	5,124	10,098	11,544	11,419	11,092	10,748	10,294	9,635	9,200	10,583	9,927	9,276	8,892	8,220
特例債除く残高											8,759	8,357	7,964	7,839	7,427

(単位：百万円)

☆企業債償還金と残高の推移☆



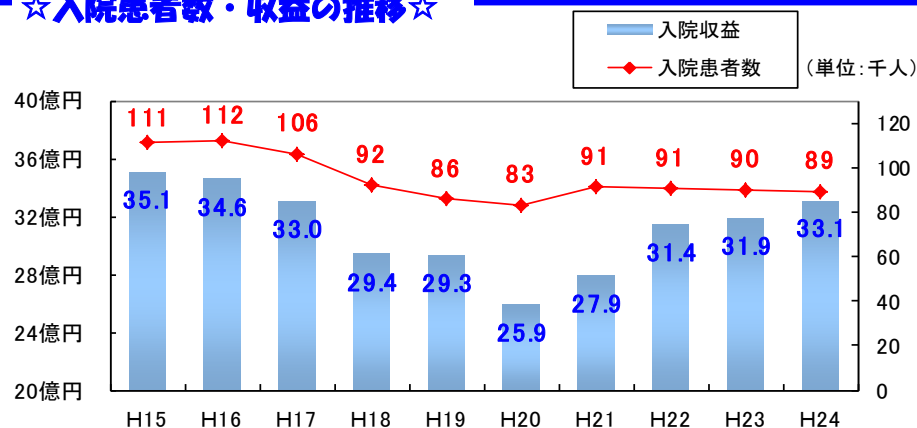
※H13は新病院完成に伴い、旧施設処分にかかる繰上償還(2億64百万円)を実施しているため一時的に償還額が増えています

5. 利用者数及び入院・外来収益の推移

当院の利用者数は、平成16年度から実施されている医師の新臨床研修制度の影響から、大学病院医局の医師派遣事情により固定医が確保できない診療科が増え始め、毎年度減少し続けていましたが、平成21年度には皮膚科、脳神経外科で固定医を確保したことで、入院・外来ともに利用者は増加に転じました。しかし、その後も厳しい状況は毎年度続き利用者数は入院で横ばい、外来では減少傾向ですが、これまでの医師確保活動や総合内科医養成研修診療所の開設、勤務医の負担を軽減するための事務作業補助体制の強化などが実を結び始め、一部診療科で診療内容の強化・拡大が可能となるなど、今後の経営健全化に向けてようやく明るい兆しが見られるようになっていきます。

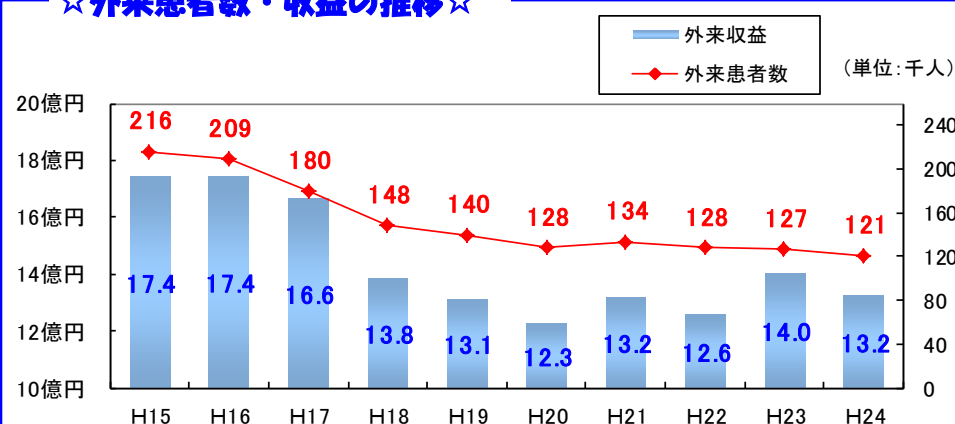
収益におきましては、入院においては診療単価の増額が見込まれるため増収となる見込みです。

☆入院患者数・収益の推移☆



- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科入院診療休止
- ・平成18年度 呼吸器内科入院診療休止、循環器内科体制縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
11月より療養病棟（50床）開設
- ・平成20年度 循環器内科入院診療休止
- ・平成21年度 皮膚科入院診療再開
脳神経外科入院診療拡大
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の入院診療再開
皮膚科、泌尿器科入院診療休止
- ・平成23年度 泌尿器科入院診療再開
12月より療養病棟を回復期リハビリ病棟に（35床）
- ・平成24年度 回復期リハビリ病棟本格稼働
7月より泌尿器科入院診療休止

☆外来患者数・収益の推移☆



- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制の縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制の縮小
- ・平成18年度 循環器内科、呼吸器内科の診療体制の縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
10月より在宅支援診療所開設
- ・平成20年度 在宅診療本格稼働
- ・平成21年度 脳神経外科診療体制拡充
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の診療体制拡充
皮膚科、泌尿器科の診療体制縮小
2月より東雲診療所開設、一般外来（午後）開始
- ・平成23年度 泌尿器科通常診療再開
- ・平成24年度 5月より東雲診療所での午前一般外来を開始
7月より泌尿器科の診療体制縮小

6. 予定貸借対照表 ～バランス・シート～ (平成24年3月31日)

貸借対照表とは、一定時点における会計の財政状況を示す一覧表のことで、「資産」と「負債」「資本」を対照表示することによって、会計の財政状況を明らかにする財務諸表です。資産合計と負債資本合計が必ず一致し、表の左右のバランスがとれるのでバランスシートとも呼ばれます。

※資産の部の未収金が約9億円もありますが、この中には月遅れで入金される保険者(社会保険や国民健康保険など)からの収益や道からの補助金などが含まれていますので、個人負担分の未収金は1億5千万円程度となっています。

☆資産の部☆

区分	金額
1 固定資産	
(1) 有形固定資産	
イ 土地	519,764
ロ 建物	5,249,700
ハ 構築物	40,717
ニ 機械及び備品	607,308
ホ 車両	439
ヘ 建設仮勘定	0
有形固定資産合計	6,417,928
(2) 無形固定資産	
イ 電話加入権	1,858
無形固定資産合計	1,858
(3) 投資	
イ 看護師修学資金貸付金	74,886
ロ 看護師研究資金貸付金	18,625
投資合計	93,511
固定資産合計	6,513,297
2 流動資産	
(1) 現金預金	108,016
(2) 未収金	906,152
(3) 貯蔵品	31,077
(4) 前払金	0
(5) 仮払金	0
流動資産合計	1,045,245
3 繰延勘定	
(1) 退職給与金	238,450
(2) 控除対象外消費税額	210,133
繰延勘定合計	448,583

(単位：千円)

資産合計 8,007,125

☆負債の部☆

区分	金額
4 固定負債	
(1) 公立病院特例債	792,782
(2) 引当金	6,720
(3) その他固定負債	5,903
固定負債合計	805,405
5 流動負債	
(1) 一時借入金	300,000
(2) 未払金	430,308
(3) 預り金	21,334
流動負債合計	751,642

☆資本の部☆

区分	金額
6 資本金	
(1) 自己資本	
イ 固有資本	1,793
ロ 繰入資本	4,013,711
ハ 組入資本	16,850
自己資本合計	4,032,354
(2) 借入資本	
イ 企業債	7,427,009
借入資本合計	7,427,009
資本金合計	11,459,363
7 剰余金	
(1) 資本剰余金	
イ 寄附金	7,302
ロ 国道補助金	634,682
ハ 他会計補助負担金	2,956,841
ニ 受贈財産評価額	374,508
資本剰余金合計	3,973,333
(2) 欠損	
イ 当年度未処理欠損金	8,982,618
欠損金合計	8,982,618
剰余金合計	△ 5,009,285

負債資本合計 8,007,125

7. 予定キャッシュフロー計算書 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

キャッシュフロー計算書とは、一定期間の「現金(キャッシュ)の流れ(フロー)」を業務活動・投資活動・財務活動などに区分して表す財務諸表です。会計上の損益の額は現金等の収支と一致しないため、キャッシュフロー(CF)計算書を用いることで損益計算書等では見えてこない現金の流れを知ることができます。

(単位:千円)

☆①業務活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
入院・外来収益	4,586,039		
他会計負担金(3条・医業)	74,371		
その他医業収入	210,826		
診療所収益	48,998		
給与費支出	△ 2,799,686		
材料費支出	△ 1,006,353		
経費支出	△ 1,083,164		
研究研修費支出	△ 18,937		
資産減耗費	△ 1,600	1,500	
減価償却費	△ 408,515	408,515	
診療所経費	△ 4,005		
医業収支	△ 402,026		
受取利息及び配当金収入	1		
患者外給食収入	1,719		
他会計補助及び負担金(3条)	413,420		
道補助金	37,316		
保育施設収入	1,664		
その他医業外収入	12,387		
支払利息支出	△ 137,797		
患者外給食材料費支出	△ 909		
保育施設費支出	△ 13,105		
繰延勘定償却費	△ 167,190	167,190	
患者搬送費支出	△ 3,868		
旧学習センター費	△ 11,557	6,720	
その他医業外費用支出	△ 94,227	2,525	
消費税資本的収支調整額	0	114	
経常損益	△ 364,172		
特別利益収入	260,589		
特別損失支出	△ 3,721	3,720	
予備費(3条)	△ 2,857		
当年度純損益	△ 110,161		
当年度損益勘定留保資金合計		590,284	
流動資産・流動負債収支A		480,123	
未収金の増加額			7,039
たな卸資産の減少額			100
未払金の増加額			△ 79,731
キャッシュフロー調整額			△ 72,592
業務活動によるキャッシュフロー			407,531

☆②投資活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
固定資産の取得による支出	△ 54,418		
上記にかかる補助金等	1		
固定資産の売却代金	1		
修学資金・研究資金貸付金	△ 26,590		
修学資金・研究資金貸付金償還金	1		
予備費(4条)	△ 1,000		
流動資産・流動負債収支B		△ 82,005	
未収金の増加額			0
未払金の増加額			0
キャッシュ・フロー調整額			0
投資活動によるキャッシュフロー			△ 82,005

☆③財務活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
長期借入(企業債)による収入	50,000		
長期借入(企業債)の返済	△ 722,222		
他会計出資金	304,602		
他会計負担・補助金(4条分)	14,376		
流動資産・流動負債収支C		△ 353,244	
短期借入による収入			2,000,000
短期借入の返済			△ 2,150,000
キャッシュ・フロー調整額			△ 150,000
財務活動によるキャッシュフロー			△ 503,244

☆④現金等の増加(減少)額☆ ①+②+③ = △ 177,718

☆⑤現金等の期首残高☆ 285,734

☆⑥現金等の期末残高☆ ④+⑤ = 108,016

※参考 流動資産・流動負債収支(A+B+C) 276,267

- ・業務活動によるCF: サービスの提供など営業活動から稼ぎ出した現金
- ・投資活動によるCF: 資産の取得、売却など
- ・財務活動によるCF: 借入金や市の繰入など外部からの資金調達